

2009 年 12 月 20 日

Report on The 2nd International Seminar,
Frontier of Energy Flow Dynamics in
Atomistic and Electronic Scales

December 1st, 2009
Aoba Memorial Hall, Tohoku University

12 月 1 日, 東北大学青葉山キャンパス・青葉記念会館において国際セミナー: 第 2 回 *Frontier of Energy Flow Dynamics in Atomistic and Electronic Scales* (略称: FEFDAES-2) が開催された. 本セミナーは東北大学流体科学研究所 GCOE プログラム「*World Center of Education and Research for Trans-disciplinary Flow Dynamics*」の助成を受けて開催されたものである. FEFDAES-2 は, 近年盛んに研究されているディスプレイ, 半導体, バイオロジーやトライボロジーにおける電子・原子スケールでのエネルギー流れに注目した. 当該分野の第一線で活躍する国内外の博士学生に講演を行っていただき, 電子・原子スケールでのエネルギー流れの将来像について幅広く議論した. また, 異分野交流も本セミナーの 1 つの目的であった. 6 名の招待講演者および学部生, 修士・博士課程の大学院生を含む計 29 名が集結した (内 15 名が外国籍). 日本はもちろんのこと, 参加者の国籍は幅広く, 韓国, 中国, フィリピン, アメリカ, フランス, スウェーデン, インド, バングラデシュと多岐に渡った.



PICTURE 1: セミナー会場 – 東北大学・青葉記念会館 (501 号室).

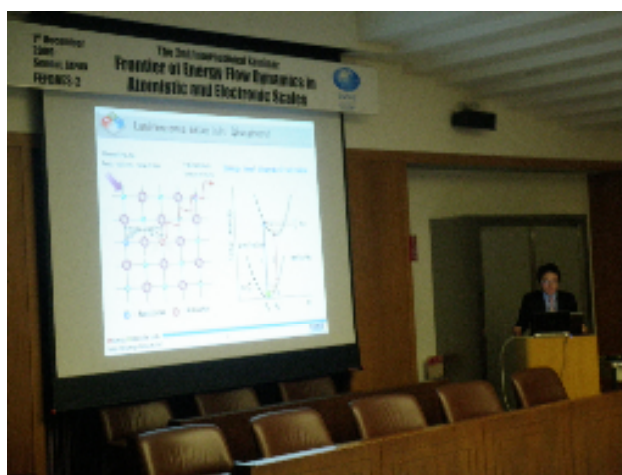
FEFDAES-2 は 12 月 1 日, 座長・鄭 善鎬による開会挨拶からはじまった. 次に, 座長・大沼宏彰から流体研 GCOE の目的・意義等が話された. 午前は 3 名の招聘者に講演を行っていた. まず, アメリカ・ワシントン大学の Bart Trzynadlowski 氏からはマルチスケールシミュレーションとその応用例, 続いて韓国・KAIST の Sung Wook Kim 氏からは有機 EL の最先端技術が説明された. 次に, 京都大学の国本 亮氏からはバイオインフォマティクスの最先端技術が説明された. その後, 昼食会が催された.



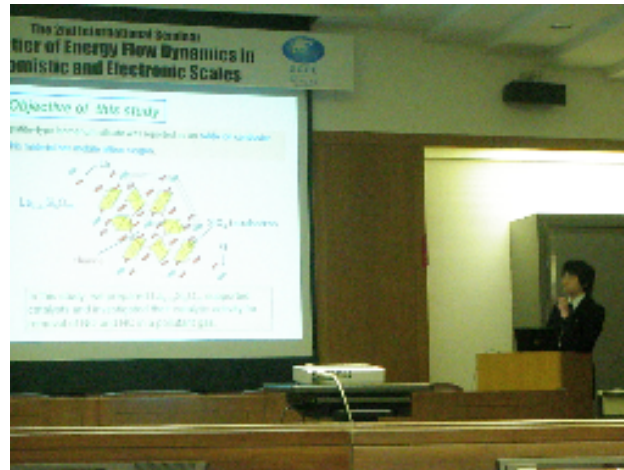
PICTURE 2: 講演の様子; 上から Bart Trzynadlowski 氏, Sung Wook Kim 氏, 国本 亮氏.

午後は、まず大阪大学の甲田春樹氏から近年発展が著しいタッチパネルに代表されるユーザインターフェイス技術が概説された。次に、18名の参加者（学部・修士・博士学生）によるショートオーラル発表が行われ、続いて、招聘者および前述18名の参加者らによるポスター発表が行われた。両時間中に、招聘者・秋田大学の小野富雅氏から自動車排ガス処理用触媒の化学反応について発表が行われた。最後に、フランス・Ecole Centrale de LyonのPaule Njiwa氏からエンジ

ンオイル添加剤の摩擦化学について、韓国・KAIST の Sung Wook Kim 氏 (招聘予定であった Hyoung Sun Yoo 氏の代理発表) から蛍光体の最新技術について講演が行われた。講演・ポスター発表中ともに修士・博士学生のみならず、多くの学部学生からも活発に質問が飛び交った。



PICTURE 3: 講演の様子；上から甲田春樹氏, Paule Njiwa 氏, Sung Wook Kim 氏.



PICTURE 4:上から小野富雅氏による発表，ショートオーラル発表，ポスター発表の様子．



PICTURE 5: 学生による質疑の様子．

最後に、座長・小野寺 拓による閉会の挨拶が行われ FEFDAES-2 は成功裏に終了した。セミナー終了後には懇親会が行われ、国籍・学年に捕らわれない活発な交流が行われた。FEFDAES-2 は全ての参加者にとって電子・原子スケールでのエネルギー流れの最前線を学び、また互いに異分野のトピックスについて議論、交流を深める絶好の機会となった。



PICTURE 6: 懇親会の様子 (東北大学・青葉記念会館 3 階 四季彩にて).



PICTURE 7: 集合写真.